よろこび

日蓮宗 顕聖会
本　山　妙顕寺
長音山　本要寺

『よろこび』十三

貫首　齊藤　日軌

暖かい春も、もう少し辛抱すると笑顔でやってきます。三月十七日から二十三日は、春彼岸です。インドのお釈迦様は、雨期に食料不足で皆が苦しんでいる時、マンゴーの実がたわわに実って皆が楽しそうにしている向こう岸を見て、それを彼岸とし悟りのよろこびの世界に喩えました。飢えで苦しむこちら岸は私達の迷いの世界、此岸です。早く食べ物の沢山ある楽しい向こう岸に行きたいのですが。ガンジス川は増水し、向こう岸に行くのが難しいのです。

日々の生活を自分本位に送っているとき、私たちは欲の川で溺れています。いつまでたっても此岸から彼岸へ渡ることはできません。向こう岸に行くには、自分本位の心、愚癡、怒り、足ることを知らぬ欲望を捨て釈尊の心を心として、釈尊のような振る舞いをするとよいのです。そのためには、南無妙法蓮華経と唱えましょう。お釈迦様の様な心になり、お釈迦様の様な行為ができるようになります。日蓮大聖人は、釈尊の心と行いすなわち、ご人格はお題目を唱えることによって頂けると仰せです。お彼岸には、皆さんお寺で一緒にお題目を唱えましょう。一緒に悟りのよろこびの世界に参りましょう。

みおしえ

日蓮大聖人は、妙法蓮華経の五字を仏になるための種子として人類救済を始められました、すなわち、妙法五字は、種子、南無妙法蓮華経は、種を心に植えることです。人類の心に仏の種を蒔きましょう。

「本門の肝心寿量品の南無妙法蓮華経を以て下種と為す。（教行證御書　遺全五三一頁・定遺１４８０頁）

この妙法五字を、一大秘法と言います。

現代生物学では遺伝子の本体は、ＤＮＡ、デオキシリボ核酸とされ、その分子構造のなかに遺伝的形質を支配する情報を含んでいます。ヒトの受精卵はＤＮＡ中の塩基の配列による情報に従って、ヒトへと発生して行きます。

妙法五字の仏の遺伝子は、その宇宙の仏の構造を遺伝情報としてそのなかに含み、信唱受持によって、人の心に植えられる時、人は、たちまちにに凡夫を脱して、直ちに仏になるのでしょう。すなわち、呵責謗法滅罪鈔に、日蓮聖人は、

「末法の始に妙法蓮華経の五字を流布して、日本国の一切衆生が仏の下種を懐妊（姙）すべき時也。」（呵責謗法滅罪鈔・定遺７８７頁）と仰っています。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え、
仏の種を頂き
仏の花を咲かせましょう